

未来のごみ処理を、みんなで考えませんか？

家庭系ごみの有料化を ご存じですか



ごみ処理には、今まで以上に多くの費用がかかっています。

将来にわたり安定したごみ処理を続けるため、
「家庭系ごみの有料化」について検討を進めています。

ごみの減量・資源化
で持続可能な未来へ



なぜ「家庭系ごみの有料化」が必要なの？

1 ごみ処理のコストが あがっています

- ▶ 燃料費や維持管理費の高騰により、ごみ処理にかかる費用は年々増えています。
- ▶ ごみ処理にかかる費用のほとんどが税金で賄われている現在の仕組みでは、分別に取り組むメリットが見えにくくなっています。
- ▶ ごみの有料化では、ごみを多く出す人ほど費用を負担し、分別などごみの減量に取り組む人ほど負担を少なくする仕組みを作ります。

今後も安定した収集・処理を続けるためには、新たな財源確保とごみ減量に向けた取り組みを進めていくことが必要です。



2 国の補助金活用に 必要です

- ▶ 諏訪南清掃センターは稼働から28年が経過しています。焼却施設の一般的な耐用年数は20年から30年と言われており、施設の更新が迫ります。
- ▶ 新しいごみ処理施設の整備には、国の補助金を活用する予定です。
- ▶ 補助金の交付を受けるためには、「家庭系ごみの有料化」を検討することが条件の一つになっています。



補助金の活用



補助金を活用することで、
地域の負担軽減につながります。

！ 有料化＝増税ではありません

ごみの減量・資源化を進めるための制度です。排出量に応じた費用負担とすることで、公平性の確保にもつながります。

3 ごみを減らして 施設をコンパクトに

- ▶ 有料化によって、ごみ減量への意識向上が期待されます。
※実施済みの地域では、平均して1～2割程度ごみが減っています。
- ▶ 持ち込まれるごみの量が減れば、新しい焼却施設の規模を適正化することができるため、建設費や将来の維持費を抑えることができます。

ごみ減量による効果のイメージ



ごみ減量



施設の
適正化



建設費・
維持費の抑制

限られた財源を将来世代に残すためにも、今から取り組むことが大切です。



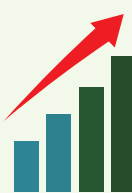
ごみ処理を とりまく 現状

諏訪南清掃センターは、稼働から28年が経過しています。焼却施設の一般的な耐用年数は20年から30年と言われており、施設の更新が迫ります。



さらなる減量が必要です。

1人1日あたり
のごみ排出量
は横ばいと
なっています。



ごみ処理に
かかる費用
は、今後も
増加が見込
まれます。

県内でも約8割の自治体で家庭系ごみが有料化されています。
(収集、持ち込み共に無料で実施しているのは77市町村のうち、11市町村です。)

皆さまのご意見をお聞かせください

家庭系ごみの有料化について、今後の制度設計の参考とするためにアンケートでご意見をお伺いします。将来のごみ処理のあり方を考える大切な調査です。ご協力をお願いいたします。
(詳細は折り込みのアンケート用紙をご覧ください。)

回答方法 右の二次元コードからアクセスし、
ご回答ください。

回答期限 2026年9月30日(水)まで

所要期限 約10～15分程度

スマートフォンで
簡単に回答可能！



お問い合わせ

諏訪南行政事務組合 廃棄物施設課 ☎0266-71-1633 (平日8時30分～17時15分)
E-mail: suwaminami.sc@city.chino.lg.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます！

諏訪南行政事務組合 ごみ有料化検討